

瀬戸内タウンミーティング（福田地区）

平成 21 年 10 月 29 日（木）19 時～21 時

福田コミュニティセンター 大会議室

参加者：男性 13 人、女性 4 人、計 17 人

市民から出た意見と市長の反応

- ・グリーンタウンに住んでいるが、子どもが帰ってきた際に駐車場が無く、路上駐車しなくてはならない状態にある。空き地を駐車場にしてほしい。この空き地は市に対して駐車場にしてほしいと言ったができないと言われた。また、グリーンタウンには公園が 3 つあるが、遊具がほとんど無い。理由としては遊具の破損などによるケガなどの責任を取れないからとのこと。子どもの遊び場としては使えないと思う。子どもの遊ぶ場を作ってもらいたい。

（市長）市の持つ資産の有効活用に取り組みたい。

- ・若い人にとって、瀬戸内市はまだ住みたいと思えるところではないと思う。岡山市から若い人を呼び込めるような税金の使い方を考えてほしい。

（市長）子どもを中心に考えたまちづくりに取り組みたい。グリーンタウンだけでなく、市全体の課題と思う。どれだけの財源を使えるのか、その財源は今の市民のみなさん、また将来の市民に負担をお願いすることになるので、やりくりを工夫していきたい。

- ・イベント補助金が今年度からカットされている。合併から 5 年たってやっとカットしたという感がある。自身が市の文化協会から補助をもらって音楽祭を開いたが、1,100 人あまりの来客のイベントが 30 万円でできた。今後、イベントを実施するなら 30 万円、あるいは 50 万円程度を基準に支出額を考えてはどうか。また、竹久夢二など過去の偉人ばかりに目を向けず、今、育ちつつある文化に目を向けるべきではないか。有効なお金の使い方を考えてほしい。

（市長）参考として、大学などの研究者に対する補助金は金額でグレードを分け、研究者が必要な額のグレードに応募する形式をとっている。この制度をそのまま適用するのは問題があるかもしれないので、補助金制度については内部で検討をしているところである。

- ・6 月 20 日頃に介護保険料の請求書がやってきた。支払い締め切りが 6 月末と

なっていた。年金生活をしているので年金の振込みがあつてから使い道を仕分けしているのでいきなり介護保険料の支払いがやってきても対応が難しい。結果、支払いが遅れて延滞金がかかった。貧しい者に対して厳しいやり方だと思ふが改善してほしい。

(市長) 気持ちはわかる。ただ、行政は法律の決まりの中で仕事をしている。改善方法を考えるが、ちゃんと払っている人に対して「行政は公平にやっている」ことを示さなくてはならないという問題も生じてくる。結果として冷たいと思われることになっていると思ふ。ご意見は担当課に伝えておく。

・ 今の財政状況と今後の収支見通しは大丈夫か。

(市長) 監査をやっていた経験から見ても、瀬戸内市は決して放漫経営をしているわけではない。「将来、夕張市みたいになるのでは」という不安を抱いている人もいると思ふが、今のところそうはならない見込みである。ただ、国からのお金、交付税が今後さらに減少することがわかっているので、さらに節約するところは節約していかなくてはならない。

・ 村田製作所や内山工業などに勤めている人が市中心部へ出て行く道が無いため、市内で買い物をしない。もっと買い物をしてもらえるように道をよくしてほしい。

・ 今の市職員の数は適正と思ふか。また組織は十分か

(市長) 外から見ている時は「まだ減らせる」と思っていたが、内に入ってみると「もっといてもいい」と思える。このバランスをとるのが経営の難しいところ。合併してから施設がばらばらにあつてそれぞれに職員が配置されている状況がある。これを集約すること、また、平成の大合併の前から「市」であったところと比べて、政策を作る力が足りていないと思ふ。職員を増やすことはできないが、新たな政策を作る市になっていくために人員を集中させることが必要と感じている。また、今までのやり方でやっているから人が足りないと感じているのかもしれない。事務処理の手続きの見直しもやりたい。

・ 分庁方式について、適正か。

(市長) 虫明から(福祉事務所のある)ゆめトピアは遠いとよく言われる。集約するとしても、今ある施設では無理。増設するにしてもお金の問題がある。

・ ごみ広域処理組合の脱退について、前々市長が組合に入りたいと言つて入つた経緯がある。加入前にコストの検討などできなかったのか。議会のチェッ

ク機能についても疑問がある。

(市長) 県の描いた絵を信じて入ったところがある。また、コスト計算にしても事業の全体像は組合に加入してから見えてきたものである。円満に脱退できるように努力しているところである。また、このコスト計算については幹部職員もよく考えて、やってくれたと思っている。

- ・ 民主党政権になって、国の制度などが変わると思うが、市としても変わらなければならないところがあるか。

(市長) 民主党政権の影響はまだ読めないところがある。ただ、自民党が行った景気対策事業の補正で手がついてないものは全てストップとなった。手がつけられていない＝具体的に練られたものでないということで仕方ないと感じている。今後政策立案能力を高め、「補助金があるから乗る」だけでなく、要・不要を判断していけるようにしたい。

- ・ 人口は何もしなければ減る。岡山市のベッドタウンとしての性格が強いことから、もっと人を呼び込むようにしてほしい。

(市長) 人を呼び込むためには瀬戸内市にどんな魅力を持たせるか、またどう発信していくか、が必要と考える。「子ども」「高齢者」にとっての暮らしについて発信するなら、例えば「子どもを育てるなら瀬戸内市」「配偶者に先立たれても安心して暮らしていける瀬戸内市」というメッセージを持たせたい。方法については作戦を立てているところ。

例えば「保育料を無料にします」としたら数億円のお金がかかる。「子どもの医療費を無料にします」というのは他の自治体もやっていることなのでメッセージとしては弱い。かなり思い切った転換がないと発信できないと考えている。またひとつの政策だけではなく、政策の組み合わせ、配合が重要と思う。職員と知恵を出し合いながら、取り組んでいきたい。

- ・ 福山用水に木が茂っており、水の流れが悪くなって困っている。当面は掃除でいいが、将来的に改修する予算をつけてほしい。老人向けの予算が30億もある中、こちらにも目を向けてほしい。

(市長) 地域の要望に優先順位をつけていく仕組みを将来的に考えたい。